

米朝首脳会談後の朝鮮半島

2018.6.7

董龍昇（トン・ヨンスン）
(ORIENTAL LINK)

I. 北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）国務委員会委員長は何を考えているのか？

① 「孤独」である。

- A. 金正恩委員長は北朝鮮の変化を一人で引っ張っている。北朝鮮のすべての人々は金正恩委員長の口に注目している。金正恩委員長が決定すればそれに従い準備も整えているということは金正恩委員長が決定しなければ変化を拒否するということを意味する。
- B. ところが北朝鮮では金正恩委員長のように世界の変化を読み取り、それに合わせた変化を決定したり、助言したりする人物がいない。

② 「ブランド」を好む。

- A. 世俗的意味のブランド品ではなく、北朝鮮をブランド化したいと思っている。夫婦同伴で専用機を乗り降りする姿、娯楽施設にて芝生をしっかりと植えろと怒る姿、最新技術を取り入れろとの指示などはこのような意識を反映する。
- B. さらに金正恩委員長は北朝鮮の住民たちの生活苦を直接経験したし、それとは反対に日本や西方の文物に直接的、間接的に接して、一種のロマンを胸の中に抱いたであろう。
- C. 文在寅（ムン・ジェイン）大統領に対し道路は不便だと言ったことは北朝鮮の現実を率直に認めながらも良い道路と鉄道を作りたい心情を吐露したものである。

③ 「勝負欲」が強い。

- A. 生まれつき、誰かに負けては生きていけない強い勝負欲を持っている。張成沢（チャン・ソンテク）の処刑や金正男（キム・ジョンナム）の毒殺がこのような金正恩委員長の属性を示している。
- B. 一方、相当なる忍耐力と持久力を持っているようである。目標を達成するために堪えることも、持ちこたえることも知っている。さらには、演技もできる。金正恩委員長が晩餐会でタバコを外で吸ったということは相手側に好感を与えるための計算された行動であろう。金正恩委員長が北朝鮮高位層の前でタバコを吸う姿はやはり計算された行動であろう。

④ 「正常化」に執着する。

- A. 金正恩委員長の行動の一つ一つは破格的に受け入れられつつあるが、過去の北朝鮮の形態は非正常的であった。貨幣交換の失敗直後や平壤のアパート崩壊事故直後に北朝鮮の官僚らが北朝鮮の住民たちに謝る姿は金正日（キム・ジョンイル）の時期には見ることはできなかったが、金正恩委員長の時代には破格的という表現を使う。しかし謝ることは正常である。
- B. 核開発の過程を全部公開してきた。核をもってアメリカと交渉するために自分たちの能力を見せることためであり、破格と言ったが実際は当然のことである。密かに開発することがかえって非正常である。このような思考が北朝鮮の正常国家化への指向へとつながっている。

⑤ 「果敢」であるが、「慎重」である。

- A. これは相互矛盾するよう見えるが、それだけ若くして経験が多く、頭が良いということの意味する。金正恩委員長はまだ35才に過ぎないが実質的に最高権力者としてで国政を担当した期間は短く見積もっても約10年になる。金正恩委員長が亡くなった11年を強調したのも自身が直接掌握した過去10年に対して間接的に誇示する面がなくはない。
- B. 金正恩委員長の果敢性は長い間考えてきたことを一つずつ実現させていくことであり、慎重なのはそれだけ北朝鮮の内部や対外的環境が変化しにくいことを認知しているからである。

II. 文在寅政権の新朝鮮半島経済構想

① 平和を優先する。

- A. かつて経済交流を通じて、お互い理解し、これを基に平和をつくっていかうということだったが、今はまず平和をつくって、平和を基盤に交流・協力をしていくということである。
- B. 北朝鮮の非核化、停戦協定そして平和協定の軌道は朝鮮半島の平和を定着させる作業である。

② 相生。

- A. かつて北朝鮮に対し、優先的に支援をし、北朝鮮の変化に合わせ、経済交流を拡大させていかうという方式でした。変化を拒否する北朝鮮を前提とし、半強制的に変化させなければならないという考えがすそ野に広がっている。
- B. 今後、北朝鮮自ら変化し、われわれはこれを支援しながら、その利益を

得なければならないということである。

- ③ 北東アジアの経済共同体を指向する。
 - A. 朝鮮半島に平和が定着すれば、韓国、北朝鮮だけの経済協力を越え、北東アジア地域の発展を企てる。北朝鮮は過去、北東アジア地域のブラックホールであった。北東アジアの国々の経済力と経済体制の差によって、経済共同体を夢見ることができなかったこともあるが、北朝鮮というブラックホールによってお互いの協力を試みることも難しかった。
 - B. 新朝鮮半島経済構想は北東アジア経済共同体の始発点を朝鮮半島で作りに出そうということである。韓国と北朝鮮あわせて8千万人の市場を越えて、北東アジア5億人以上の巨大市場を夢見る。

III. 米朝首脳会談後の朝鮮半島

- ① 1951年サンフランシスコ体制の解体が始まる。
 - A. 太平洋戦争以後、北東アジアは1951年にアメリカ・サンフランシスコにて締結された米日講和条約以後、韓米日対中露朝同盟の構造が形成されてきた。
 - B. 米朝首脳会談で、終戦宣言と平和協定が締結されれば、サンフランシスコ体制は、自然と解体のプロセスへと進入する。
- ② 南北は個別の国家としての形態を持つようになる
 - A. 1991年南北朝鮮は、国連に同時加盟したが、依然として統一を指向する特殊関係であり、朝鮮半島の唯一の合法的政府は韓国である。過酷は中国及びロシアと国交正常化したが、北朝鮮は米国や日本と国交正常化することができなかった。
 - B. 終戦宣言、平和協定締結は、米朝国交正常化と日朝国交正常化につながり、これは北朝鮮も合法的政府であると認識される契機となる。
 - C. 南北朝鮮は、これで別個の国家となり、特殊関係ではなくなる。このため、南北朝鮮のFTAが必要となる。
- ③ 北朝鮮は市場となる
 - A. 北朝鮮は2,500万の人口を有する市場であり、白紙状態の経済が改革開放を始める。北朝鮮は内部的に市場改革を推進中であり、27カ所の経済特区を開放した状態である。中国が1972年ピンポン外交を通じ、米国との関係改善以降、78年改革開放を推進した事例を参照する必要がある。
 - B. 朝鮮半島の地政学的特性を活かすことができる巨大プロジェクトが可能

になる。中国と連結する高速鉄道は日本まで延長することもできる。ロシアのガス資源は、朝鮮半島を通過して日本まで到達することもでき、中国を通過して朝鮮半島に入ってくることもあり得る。このような作業は北朝鮮の電力及び通信網構築作業と連携することがありうる。

- ④ それにもかかわらず、来たチョス円市場は当分の間、「ハイリスク、ローリターン」市場である。
- A. ハイリスクは北朝鮮内部の硬直性のためであるが、北朝鮮の官僚の思考方式は「化石化」している。化石から脱却するために長い時間と忍耐、努力が必要となる。
 - B. リスクマネジメントが必要である。北朝鮮と事業を行うためには、北朝鮮の良いパートナーと組まなければならない。
 - C. 貿易と加工貿易事業から展開することが効果的である。
 - D. 北朝鮮発のブランドを開発することも効果的である。

以上